

Y08b 「星の語り部」 山梨県立科学館を拠点とする市民コミュニティー

伊藤哲也（国立天文台）、跡部浩一（甲府市立山城小学校）、高橋真理子（山梨県立科学館）

サイエンスクルー「星の語り部」は「表現・創造・交流」をキーワードに、山梨県立科学館を拠点として活動している市民コミュニティーである。自分の内なる宇宙や星に託して伝えたいメッセージを、プラネタリウムというメディアを使って表現することを活動の目的としている。3年前に活動を開始し、現在は約30名のメンバーを数える。

主な活動は毎年夏休み期間に投影されるプラネタリウム特別番組「夕涼み投影」の制作である。メンバーには多彩な趣味や特技の持ち主が集まっており、番組制作ではそれを活かし、シナリオ執筆、写真撮影、イラスト作画、作詞作曲、演奏、録音、ナレーション、演出のすべてを分担して行っている。また、これ以外に、朗読会や句会、合唱などの創作活動や観望会合宿の開催、科学館主催のワークショップや特別投影、ライトダウンイベントへの協力などを行っている。

また、「星の語り部」の特色は4人の視覚障害者が参加していることである。このため、昨年夏に制作した番組ではできるだけ映像に頼ることなく、視覚障害者にもわかりやすい番組を目指した。これが地元メディアにも大きく取り上げられ、科学館が制作する番組においても副音声や点図星図に取り入れられることにつながった（本年会発表 高橋真理子ほか「視覚しょうがい者と楽しむプラネタリウム」）。また、合宿では視覚障害者とともに天体観望も行った。これらの活動からは宇宙に対する疑問や興味は障害の有無を越えて共通のものであり、それを一緒に楽しむことができることがわかる。

本発表ではこれら「星の語り部」の活動について報告する。